

Perry Rhodan Nr.2700

西暦 2013 年 5 月 17 日

Der Techno-Mond von Andreas Eschbach

テ ク ノ ム ー ン 技術的な何かの網に覆われた月

刊行

Das Atopische Tribunal アトピック 刺激的な法廷サイクル開始

前サイクル〈ニューロヴァース〉では——

新銀河暦1469年、超知性体キン・シが、超兵器ボットネットで星系ソルをまるごと〈異常空間〉に拉致。

翌年、事件は解決した。

星系ソルは、銀河系の本来あった座標に、無事帰還

……したはずが、問題がふたつ。

ひとつは、到着した時、銀河系では33年が経過していたこと。

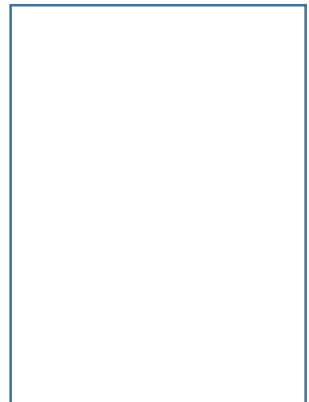
ひとつは、月だけがさらに遅れて、さまがわりして到着したこと。

新銀河暦1514年6月19日——

月宇宙船《スターダイヴァー》の本番パイロット、ペリー・ローダンは、人類未踏の月面へ。

そして、この日……。

宇宙的犯罪者として告発されることに。



ペリー・ローダン夏期講習 2013

新銀河暦1514年6月15日……。

ペリー・ローダンは、自由テラナー連盟の特別非常勤職員にして、ポリポート駅網の管理役。この日、訪れたのはテラニア・スペースポートだった。

封鎖されたドームの中は、傍目には何のコトやわからない打ち上げ準備に、忙殺されていた。

表向きは、ワリンジャー・アカデミーの一プロジェクトだ。

自由テラナー連盟の首長、政庁首席アルン・ジョシャナンも、仔細は知らない。ギャラクティカム議長、アルコン皇帝ボスティク1世は、何ひとつ知らない。

ドームのパラトロンバリアの中では、ローダンの右腕と自認する金星人バジル・ナンが、とっくに決まっている最終結果をもう一度コントロールするという目的に集中していた。

最終調整中の《スターダイヴァー》は、直径200mのミネルヴァ級巡洋艦をベースに、新開発のハイバートランスプログレッサー超空間移行促進機を載せた特殊

船。両極に長さ50mの紡錘状の突起が出ている。

そう、歴史は繰り返す。

ペリー・ローダンは、あの月に立つ最初のひとりになるのだ。

新銀河暦1470年1月17日、星系ソルは〈異常空間〉を出発。銀河系の本来の座標に、瞬時に帰還した……つもりだった。

だが、到着したのは、銀河系の暦で1503年8月26日。星系ソルが帰還を始めて、33年が経っていた。その上、月が足りない。衛星ルナの計算脳ネーサンと工業施設を失い、とりわけ惑星テラは困窮する。

＊

34年前、星系ソルと共に惑星テラが消え失せた時、自由テラナー連盟を構成するテラナー植民惑星4047と、他6000を超える惑星は、プレアデス星団の星系ヨグル第7惑星マハラニで協議。プレアデス同盟の執政官、アルン・ジョシャナンを暫定・第一テラナーに選び、惑星マハラニを

首星に定めた。

34年後、帰還した星系ソルは、あらためて一星系として連盟に参加することになった。

惑星テラの象徴〈太陽系政庁〉も、マハラニに移動した。首都テラニアの広大な外交官居住地区に住む者もなくなった。

ペリー・ローダンは、空き家になった一大使館に居を構えた。

＊

新銀河暦1512年5月22日、月が現れた。

だが、惑星テラの衛星は、さまがわりしていた。

まず、月面を、機械、装甲、各種の技術構造物が網状に覆っていた。テラの人^{テクノ・クラ}は、これを技術の殻^{スト}、または、技術^{テクノ・メッシュ}の網と呼んだ。

加えて、月の上空1万2000メートルに、緑がかった未知の力場があった。物理的に通過を阻むだけでなく、心理的な嫌悪感を与えるこの壁は、反発^{リパルサー・ウォール}の壁と呼ばれた。

不気味な月を忌み、2年の間に10億人がテラを去った。その同じ月に、研究者や、旅行会社らが群がった。

ソル政府は、ジュピター級ウルトラ戦艦《エラス・コロム＝カン》を旗艦とする1千隻で衛星ルナを封鎖。3万キロの距離を置いて監視させた。

3

新銀河暦1514年6月15日……。

ローダンは、テラニア・スペースポートに続いて《エラス・コロム＝カン》を訪ねた。

月から、何者かが周辺を走査したふしがあるという。

翌16日、ローダンは、ソル政府官邸ソーラーハウスに、シク・ドルクスタイゲルを訪ねた。このアトル人女性は、今は自由テラナー連盟の首席科学者だ。

《スターダイヴァー》の超空間^{ハイパートラ}移行促進機^{ンスプログレスサー}は、もとは銀河間航行船用に開発したものだ。

稀少なハイパー水晶、サルクリットを大量に消費するが、助走なしに船体を超空間に移行できる。超空間を亜光速で推進できるから、月近くで超空間に入り、リパルサー・ウォールの下で通常空間

に復帰するのも可能な理屈だ。

問題は、稼働時に出す放射が致命的なことだ。超空間に入る際、生身の乗員を一時的に非物質化しておく必要がある。

乗員の大半はロボットでまかなえる。だが、肝心の操船はロボット任せというわけにいかない。文字通り一体となって船を操る技術と経験が要る。

そこに、ペリー・ローダンが志願した。自分なら《ミクル＝ジョン》を精神の力で操った実績があるというのだ。

最終的に、乗組員はローダンを含む4名に決まった。

トウフェクはナノ工作員〈パズズ〉を操る。シャンダ・シャーモットは超能力者。ハイパー物理学者フィオン・ケメニーは、^{ハイバートラ}超空間^{ンスプログレッサー}移行促進機の開発者で、この計画の責任者だ。

発進は、6月19日……かつてローダンが最初に月に飛び立ったのと同じ日に決まった。

4

17日、ローダンは、大富豪ヴ

ィコル・ブガシドウの招きに応じ、スペースジェットで火星軌道に向かった。

ランデヴーしたのは、大富豪の“個人ヨット”《クルーゼンシュテルン》。

一辺2.5kmの箱型をしたポスピ船で、平坦な表面に中世の城か聖ワシリー大聖堂を思わせる構造物が突き出てみえる。

*

数週前、ペリー・ローダンは、TLD長官アッティラ・レッコルから気になる報告を受けていた。

《クルーゼンシュテルン》で操縦士を務めるテフローダー、ファリエ・セフェロアは、じつはローダンの血縁者……孫娘であるというのだ。

ローダンは、息子たちの顔を思い浮かべた。

*

大富豪ヴィコル・ブガシドウは、自分の研究が学会に認められぬ窮状を語った。

遠い昔、ソル系を離れたメデューサという惑星がある。

かれは、木星の衛星エウロパの私有地で、1800万年から21

00万年前の遺跡を発掘。異文明の技術が残る洞窟に、惑星メデューサーの手掛かりを見つけたのだ。

恒星を離れた惑星を追跡するには、大型ポジトロニクスを使った複雑な軌道計算が必要だ。だが、学会で異端視されるヴィコルは、演算時間の割り当てを得る術がない。

それゆえ、ローダンの口添えで、生体ポジトロニクス〈アザーワイズ〉の演算時間を融通してもらえないか、という。

かつて木星の衛星軌道にあった〈アザーワイズ〉は、今はテラニアのソーラーハウスに移設されていた。機能拡張の上、月の計算脳ネーサンに代わりソル系の各種制御の根幹を担っている。太陽系政庁と共に計算脳ラオツェがマハラニに移転した今、道楽に割く余裕のある施設ではない。

ローダンは言葉を選び、富豪の望みを退けた。

それでもヴィコルは食い下がり、ローダンと再会の時の符丁を申し合わせた。

《クルーゼンシュテルン》は、この先、エウロパに立ち寄り、大

富豪の故郷……ターラニス系、惑星イアペトゥスの衛星レアに帰還する予定という。

この訪問で、ローダンが、孫娘……と目される操縦士と言葉を交わす機会はなかった。

5

翌18日、ローダンはソーラーハウスで、ソル系首相カイ・チャンから、イーストサイドでブルー人とテフローダーの武力衝突が起きたと聞かされる。

きっかけは、ポリポート駅《イタフォル=5》だ。

銀河間を分から時間の単位で結ぶ超技術の交通システムは、他の宙域でも利権争いや紛争の火種となっている。

アンドロメダ銀河でも、先だってポリポート駅がらみの問題が持ち上がり、レジナルド・ブルが《ジュール・ヴェルヌ》で対処に出向いたばかりだった。

カイ・チャンの話によれば、今回のイーストサイドの武力衝突には、ギャラクティカムの要請にもとづき、ソル系も人道支援部隊

を送る。ポリポート駅網の管理役であるローダンも現地に向かって欲しいという。

ローダンは、月の仕事を片付けたら、ポリポート駅網経由で現地に向かい、先行する部隊と合流しよう、と約束する。

*

ソーラーハウスを出て、ローダンは、スタータック・シュレーダー医院にグッキーを見舞った。

2年前、月が帰還した時、ネズミビーバーのグッキーは、月面に向けテレポートを試みた。

その時、リパルサー・ウォールに触れ、いふなれば超心理的な火傷を負ったのだ。以来、ずっとこうして昏睡状態にある。

6

ブルー人とテフローダーの戦闘が始まった星系ガタミュズは、恒星ソルから距離5万9475光年。銀河系の反対側、イーストサイドにある。

*

5万年前、惑星レムール……今のテラに発したレムール人は、銀

河系全域に星間帝国タマニウムを築いた。各星域の恒星転送機は、その遺産として知られる。

タマニウムが滅亡し、レムール人の一部がアンドロメダ銀河に逃れた後、イーストサイドに広がったのが、ブルー人だ。

西暦2406年、アンドロメダ銀河の〈島の王〉とテフローダーの体制が崩壊すると、テフローダー難民が銀河系に渡り、ノースサイドに住みついた。この子孫が、今は新タマニウムを称している。

*

一方、ポリポート駅は、1000万年前、アンスリアン人が建設した銀河間転送網のステーションだ。ヴァトロクスの周波王国と、半空間シュプール・チェンジャーの手を経て、今の銀河系ではギャラクティカムが管轄する。

移動手段としても、文化・技術資産としても、かけがえない施設だ。

ポリポート駅《イタフォル＝5》は、長くサウスサイドの恒星転送機ナベグ五角形の近くにあった。13年前、転送の遅延が目につくようになり、恒星転送機の

干渉が疑われた。そうして、ギャラクティカムはこの施設を星系ガタミュズに移設した。

だが、星系ガタミュズはブルー人の版図にある。ブルー人は、テフローダーが《イタフォル＝5》に近づくのを許さず、4年前、最初の武力衝突が起きた。

以来、《イタフォル＝5》には、ギャラクティカムの派遣部隊が駐留している。

＊

新銀河暦1514年6月、テフローダー監視船が星系ガタミュズに接近。不幸な出来事が重なり、ブルー人とテフローダーの大規模な武力衝突に発展した。

ギャラクティカム派遣部隊の旗艦《ガルブレイス・デイトンV》では、司令官アンナ・パトマンが、できすぎた事態の推移に何者かの意図を嗅ぎ取る。だが、今は、まだ漠たる予感でしかない。

そうするうちに、新タマニウムの首長の旗艦が現れた。ヴェトリス＝モラウドの《ヴォーラタ》だ。

＊

この後……。

ギャラクティカムは、ソル系に

人道支援を要請。ソル系は《ジョヴァンニ・カボート》を旗艦とする70余隻の派遣を決めた。

7

6月19日、《スターダイヴァー》はテラニア・スペースポートを発進し、月へ向かった。

リパルサー・ウォールの5万5000km手前……ペリー・ローダンハイバートランスプログレッサーは超空間移行促進機のスイッチを入れる。船体の両極の紡錘が転移泡を生成し、船は超空間に移行した。

同じ時……。

月面テクノ・クラストで技術殻が開いた。見慣れない球形艦32隻が上昇を始めた……。

＊

《スターダイヴァー》は、リパルサー・ウォールの内側に実体化した。

月面に出現した一群の球形艦は、2隻が《スターダイヴァー》を砲撃。30隻がリパルサー・ウォールを抜け、宇宙に出た。

「我が名は、シエクヴァル・ゲネリク。宇宙父艦《ホートリ》の艦

長にして、オンリオン艦群の司令官である」と、漆黒の肌と金色の眼をしたヒューマノイドが言う。

「アトピック法廷の名のもとに告げる……」

ゲネリクは、星系ガタミュズに向かう部隊に停船を命じた。

人道支援部隊の旗艦《ジョヴァンニ・カボート》は、突然出現した異人の一方的な主張を黙殺。僚船と共にリニア空間に入った。

これに対し、オンリオン艦群30隻は宇宙魚雷300基を射出。ソル系艦隊は迎撃するが、96基を取り逃がした。

超空間に消えた魚雷群は、リニア航行中の70余隻に追いつき、全船を沈めた。

オンリオン艦群30隻は、無傷でリパルサー・ウォールの中に撤退した。

8

シェクヴァル・ゲネリクは、星系ソルにおいて超光速航行を禁じる声明を出した。

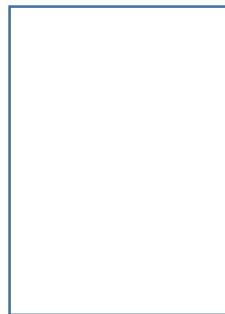
「本日は銀河系におけるアトピック法廷の最初の年、最初の日であ

る」

その上で、ペリー・ローダんと、アルコン帝国皇帝ボスティク1世の引き渡しを求めた。

被告ペリー・ローダンの罪状は3つ……ドリフェル・ショックを引き起こしたこと。セト＝アポフェイス、コルトロクら、超知性体を手掛けたこと。ならびに、GAヨマードの〈世界を滅す劫火〉を起こすこと。

「ペリー・ローダンは、8万4387年の正義の第八循環において〈世界を滅す劫火〉を引き起こすであろう」



ペリー・ローダン夏期講習 2013

ストーリーダイジェスト

Perry Rhodan-Heft Nr.2700

“Der Techno-Mond”

von Andreas Eschbach

2013/7/21 y.wakabayashi@rlmdi.